

# 地球環境変化に対する生態系の管理と保全

## こんな問題に取り組んでいます

近年の気候変動や人間活動の影響の増大に伴い、環境変化に対する生物や生態系の応答は一段と不確実性を増しています。そのような応答を予測し、生態系の機能およびサービスを持続的に利用していくことは決して容易ではありません。私は、景観生態学および群集生態学的手法を用い、生態系の理解に基づく生態系の管理や保全に関する研究を行っています。

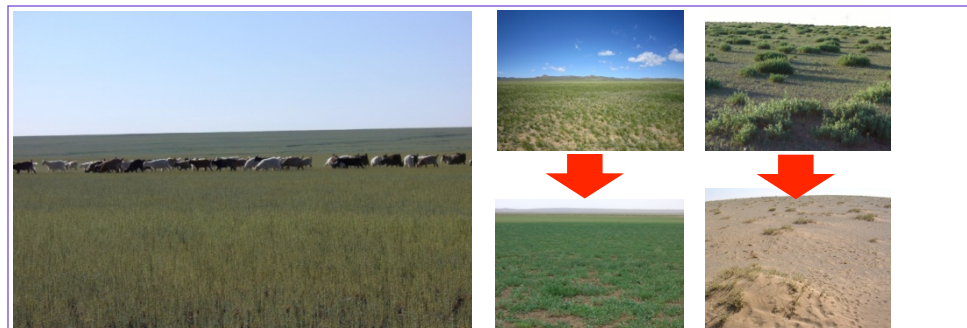
## こんなことがわかってきました

例えば、モンゴルの乾燥・半乾燥草原における研究では、家畜の放牧によって生態系の状態が急激に変化し、また放牧によって植物群集における種数が一定以下になると急速に生態系機能（生態系内の相互作用による物質の生産・分解・循環を基本とするプロセス）が失われることなどが明らかとなってきました。

## 研究の成果はこんな分野に活かされます

生態系の持続的な利用と生態系の機能およびサービスの維持を相補的に達成するための生態系管理を実践に導くことができます。今後も、さまざまな生態系を対象として、生態系および人間社会双方の持続可能性を模索するための科学的基盤を確立していきたいと考えています。

連絡先： 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻  
佐々木雄大<sasa@k.u-tokyo.ac.jp>



家畜放牧による土地利用が優占するモンゴルの草原

放牧による生態系の状態の急激な変化

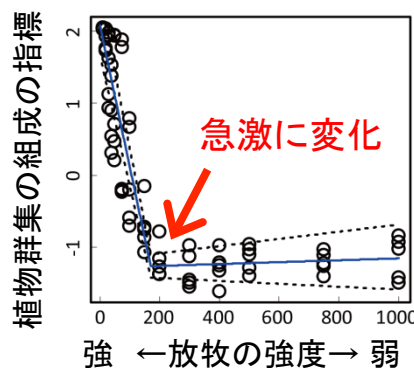


図1. 放牧による植物群集組成の急激な変化

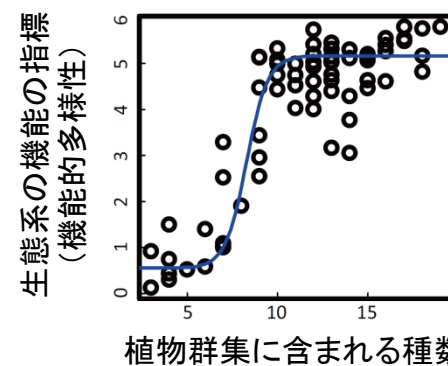


図2. 種数の減少に伴う生態系の機能の劇的な変化